百年の大計　土地改良

ある中山間地域の小さな土地改良区の事務所に掲げられた看板に、力強い墨でこうある。早くからほ場整備に取り組み、計画的な村づくりに取り組んできた信念がその文字に表れている。

あえて条件の悪い山間部からほ場整備の合意形成を進めてその効果を実証し、それをもって事業を平場に広げ、地区内の整備率はほぼ100％を達成している。換地にあたっては、県道を誘致するため、あらかじめ共同減歩でその用地を確保し、県との調整を重ね、地域が望むルートでその計画を実現している。

ほ場整備をほぼ終えて末端の用排水施設が整備され、その水路系統が定まった段階からは集落排水事業に取り組む。農業用水の水質を改善するとともに、地域のトイレの水洗化を進めて若者の定住化に向けた生活環境の改善を図るためだ。

農村計画学の中で、農村は生産の場と生活の場が一体化した複合空間だといわれる。だから、都市のように商業地域、住居地域などと用途区分することは困難だ。家の周りが生産の場である農地であり、その生産を支える農業用水は生活用水でもあり、また家の生活排水は農業用排水路へと流れていく。そして、ほ場整備の換地で農家が土地を出し合って作られた農道は地域の生活道路でもある。

したがって、生産基盤の整備は生活環境の整備と一体的な計画の下に進められるべきであるし、その計画づくりは換地や共同減歩という手法をとってみても地域主導とならざるを得ない。

この小さな土地改良区は、いわゆる村づくり委員会の機能を果たしてきている。地区内の小学校に市街地から教員が着任すると、土地改良区の役員が初めて基盤整備を実施したほ場に案内して地域の土地改良の歴史、村づくりの歴史を説明するという。自分たちの子供を教える先生には、地域の土地改良の歴史を知っていてもらわなければならないという思いからだ。村づくりの仕上げに、先の県道沿いに道の駅を設置して都市農村交流の拠点を整備し、地域活性化にも取り組む。そして、この長い活動の歴史は国から高く評価され、農林水産祭むらづくり部門で天皇杯を受賞している。

このような村づくりの歴史の基盤となっているのは、この土地改良区の看板にあるとおり、「百年の大計　土地改良」である。そして、地域で困難な調整を重ね、やっとの思いで合意形成に至った長期的な計画を実現していくためには、安定的な予算措置が不可欠である。時の政治で右往左往させられることがあってはならない。平成22年度に土地改良予算が半減されて以降、全国水土里ネット会長会議顧問の進藤かねひこ氏の言われるように、ジェットコースターのような予算措置の状況が続いている。これを脱するためには、今まさに関係者で志を共有し、それを行動をもって明確に示していく必要があるのではないか。

ホットライン ニュース

進藤かねひこ氏に推薦状を渡す宮本会長

土地改良建設協会理事会で進藤かねひこ氏を推薦決議

（一社）土地改良建設協会では、平成27年12月9日の理事会で全国水土里ネット会長会議顧問の進藤かねひこ氏を参議院選挙全国区候補に最適任として決議し、宮本洋一会長から推薦状を渡した。進藤氏からは、御礼の挨拶があり、土地改良予算回復に向けた決意表明がなされた。